

18

雲のうえ

北九州市



ベスト BESS 展示場へ行こう!!

丸い家、四角い家、三角屋根の家、シブい家…個性たっぷりの木の家や楽しいインテリア、気持ちいいウッドデッキや庭。BESS展示場には、「こんな風に暮らしたら、楽しそう!」のヒントがいっぱい。今度のお休みは、BESS北九州展示場に出かけてみては?



普通の住宅展示場と全然雰囲気が違うよね
え?好きなように見てまわりたいの?
緑も多くて、公園みたい!
お家にいろんな顔がある。おもしろ〜!

ようこそBESS北九州展示場へ!
オープンから16年間で、**30,000**組のお客様にご来場いただきました。

寛いで見学いただけるよう、スタッフの付き添いはありません。お気軽にご来場ください。

自宅として楽しむログハウス 個性あふれる木の家の内部に潜入!

ログハウス=山小屋の別荘と思っている人も多いのでは?実際は、9割の人が自宅として住んでいます。木のぬくもりいっぱいの家、街の中に、今どんどん増えています。

どんな365日になるんだろう?

読書? BBQ? どう使う? どの家にもウッドデッキが!

すべての家にキッチンがあるように、すべての家にウッドデッキが! “大空の下のリビング”を、暮らしに欠かせないアイテムと考えている BESS。この空間、どう使うかは住む人次第?

晴れた日が 楽しみになる空間!

◎あきつログハウスは、ウッドデッキの代わりに、庭の楽しみを提案しています。

理屈抜きに、五感で感じてみて! 吹き抜け・天窓のある空間

同じ㎡でも、広く明るく感じるのなぜだろう? 心がおだやかになるのは、どうしてだろう? BESSのキーアイテム・吹き抜けや天窓の気持ちよさはカラダで体感しないといけない!

何だか 気持ちいいなあ...

「カッコいいね」「なんだこれ?」 楽しい暮らしが想像できるインテリア!

そこに住んでいる人の顔が見えてくるような、凝ったインテリアも面白い! 家を見に来たつもりが、小物や家具に入っちゃいました! という人もしばしば。

ひとつひとつに すこいこだわり!

映画の世界だけじゃなかった! やっぱり羨ましい「薪ストーブ」

ログハウスと言えばやっぱりこれです。薪の炎を見つめていると人間の気持ちは穏やかになるのだとか。BESSの住人の半分以上の人が、薪ストーブを設置するというデータが。

わが家にも絶対ほしい

◎ストーブ一台でハイブリッド車5台分! 700削減効果もあるエコな暖房として注目されています。

このまんま住めるんだあ。標準プランで実際の暮らしを体感

豪華絢爛なモデルハウスに憧れて家を建て「展示場は良かったけれど……」という気持ちになるのは何となく……。見学できる建物は、等身大の標準プランだから、実際に住んだときの感覚がわかりやすい!

住み心地が 実際にわかる!

あの人はだれ? 平和公園の6代目

季節は大寒、早朝6時30分。小倉北区の足立山の麓にある平和公園に、愛用の黒い箱形のラジオを携えてやってきた中川さんの周りを、遠く近く囲むように人が集まってくる。おもむろに始まるのは聞きなれた曲とリズム。ラジオ体操である。第一・第二がひととおり終わると誰からともなく拍手が起こり、三々五々、みな散り散りに帰っていく。

いつのまにか始まった約束のない習慣。多少の雨や雪ならものともせず、盆も正月もなく続いている。中川さんは毎日5時には家を出て、足立山周辺を散歩してから公園へ向かうのだという。続けている理由を聞かれば、「やりきらんと一日が始まらんから」。

製鉄の仕事を定年退職後、平成6年に夫婦で健康のために参加するようになった。翌年に、前任者から白羽の矢が立ち、指導員後継候補に。正式に「お務め」を託されてから8年が経つ。近所の方の記憶では、嫁いできた昭和48年には、すでにラジオ体操の会が開かれていたという。じつはこの指導員、中川さんで6代目だ。代々受け継いだバトンを自分のところで途絶えさせてはならない、その気持ちで健康の励みと笑う中川さんに、明日も新しい朝はやってくる。



北九州市 未登録文化財 第一章

目次

2 街を歩けばトマソンに当たる。路上観察学会小倉支部・活動報告

特集

- 5 大庭美智子さんのたばこ箱細工。(釜山区)
 - 10 丸尾龍一くんのデコチャリ。(門司区)
 - 16 マカロニ星人と呼ばれる。(小倉北区)
 - 17 若松埋め立て物語。(若松区)
 - 18 落ちるか、登るか。(小倉北区)
 - 20 頂にキラリ。(小倉南区)
 - 22 小倉絶景。(小倉北区)
 - 23 花屋のチャリ。(小倉南区)
 - 26 鉄の忘れ形見。(八幡西区)
 - 27 ガンモあります。(若松区)
 - 28 大迫透さんのセメント彫刻。(小倉南区)
 - 34 木の上のゴリラ家。(戸畑区)
 - 35 伝説と岩盤と。(小倉南区)
 - 36 橋野文男さんのテント絵。(小倉北区・南区)
 - 40 空に近い土俵。(八幡西区)
 - 42 守るのは猪。(小倉北区)
 - 43 驚きと笑いと感心の三位一体。未登録文化財散策マップ。
- 監修 牧野伊三夫
- 「雲のうた」18号
題字 牧野伊三夫
表紙の写真 長野陽一
アートディレクション 有山達也
編集 づるやもも 校正 藤藤晋
©北九州市 2013
本誌記事・写真・イラストレーションの無断転載を禁じます。

BESS北九州展示場は、「暮らしを楽しむ家づくり」のお手伝いをしています。自宅向けログハウスをはじめ、個性的な木の家7棟をご見学頂けます。

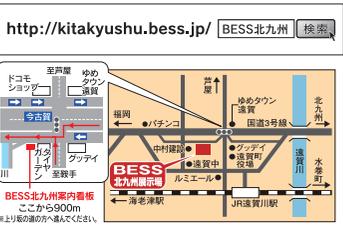
ベスト BESS 北九州展示場

「住むより楽しむ」 Phone:093-291-1700

〒811-4331 福岡県遠賀郡遠賀町別府3713-3

- 営業時間/AM10:00~PM6:00
- 定休日/水曜・木曜(祝日は営業)
- 交通/車:国道3号線遠賀バイパス側道沿い 黒崎I.C.より約20分・古賀I.C.より約40分

株式会社BESS福岡



BESS安心総合保証

BESSなら建てる前も建てた後も安心。建て替え、住み替え、用地転換、住宅ローン等、お気軽にご相談ください。

役務工事 完成保証

50年保証 (50年保証)

3Dデジタルサポート

施工後に地盤と掘削を併せて保証する「50年保証システム」(住宅ローン優待)

万一の不具合にも、万全な24時間態勢の「メンテナンスサポート」

街を歩けば トマソンに当たる。

路上観察学会小倉支部・活動報告

「トマソン」とは、1970年代に日本で生まれた芸術概念のひとつ。芸術家の赤瀬川原平氏を中心に、編集者であった南伸坊氏、松田哲夫氏らが始めた活動は、80年代にかけて一世を風靡した。街中の建造物や設置物に、不可解な凹凸や不条理な笑いを求め、無用の長物として存在するそのものの中に、無意識の芸術性を見いだす。赤瀬川氏らは、それらを「物件」と呼び、写真に収め続けた。

ここ北九州市には、できたてホヤホヤ、やる気上々の「路上観察学会小倉支部」がある。支部長は二宮啓市氏、隊長1号・通称「赤靴」こと山中美穂子さんと共に、ふたりが所属する会社「北九州まちづくり応援団」を拠点に活動している。「街を県外にアピールしたいと切り口を探しておりまして。『パワースポット巡り』とか考えてみたんですけど、まあ、見つからなかった(笑)」と、支部長。その日も街を歩き回っていたところ、ヘンテコな建造物を発見。その光景は、二宮さんが学生時代にはまっていたトマソンそのものだったのである。工業と共に近代化を生き、その後商業の街としても栄えたこの街には、スクラップ&ビルドを繰り返しつつも、旧き建造物や文化が残っており、それらが入り乱れながら混在している。不条理な光景が残るこの街は、トマソンの宝庫だったのである。

物件①



「甘いゴミ箱」

場所：小倉北区魚町2丁目。若いギャルがゴミ箱と記念撮影をしているところに遭遇し、発見。いったいどれほどの重さのカカオが詰まっているのかと期待してしまう。が、実は「Wine bar(+kitchen) Chocolate」というお洒落なバーのゴミ箱なのであった。

物件②



「線路は続かない」

場所：小倉北区大門2丁目～鑄物師町1丁目間の踏切内。九州軌道(株)の大門発電所の遺構探索中、日豊本線沿いに発見。JR九州小倉工場への引込線のため、この場所は非常に線路の数が多い。現役とリタイア組が混在する、線路マニアにはたまらない場所である。

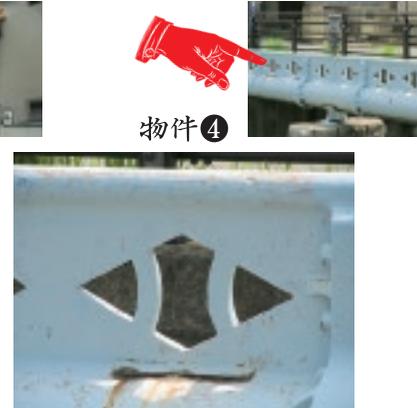
物件③



「団体様用エンジェルドア」

場所：小倉北区宇佐町1丁目。空中に浮かぶ無用のドアをトマソンではこう呼ぶ。これは、赤靴さんが餃子を食べに向かう道中で発見。ひとつの建物に、3つも空中ドアが備わって、空さえ飛べれば出入りは自由。間違いなく、エンジェルたちの合宿が行われていると思われる。

物件④



「合併前遺産」

場所：小倉北区堺町2丁目にある「上砂津橋」。欄干に「小」の字が。じつは北九州市が5市合併する以前の旧小倉市の市章である。市章は「マンホール」が主な採集物件であったため、支部長は「わし、すごいものを発見した!」と自画自賛。「明治43年」製造の刻印あり。

物件⑤



「見下ろす般若」

場所：小倉北区魚町4丁目の且過市場のお稲荷さんの前。近くを観察中にふいに上を見上げると目があった! 通りがかりに手を合わせる方もいるとか。この般若の目線の先には鳥居があり、どうやらこの鳥居と深い関係があることが判明。謎が知りたい方は近くの蕎麦屋「萬作」へ。

物件⑧



「段々カステラ」

場所：小倉北区京町3丁目のコインパーキングに、かつて隣にあった建物の形態が壁に「転写」するように残っている。トマソン分類における「カステラ」とは、壁面から飛び出した直方体状の部分をいう。出窓の塗りつぶしなどでも発生。階段状になっているのが大変貴重である。

物件⑦



「境界は曖昧」

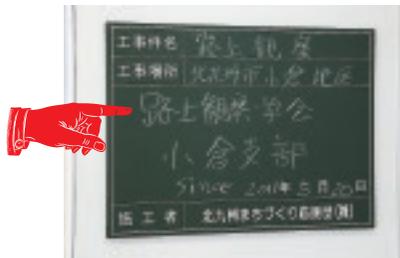
場所：小倉北区大門2丁目。長崎街道で小倉城下の西の郭入口にあたる「大門」のすぐそばにあることがこの物件の魅力のひとつ。意味が即座に理解し難いものを「境界物件」と呼んでいるが、この高さ、幅、場所といい存在のすべてが曖昧で、想像力をかき立てられる。

物件⑥



「目的不明?」

場所：小倉北区清水3丁目。九州鉄道旧大倉線の跡を観察中に発見。道路の端っこだではなく、真ん中にあり、御影石の囲いの中にうやうやしく、世にも有名なマークが……。周囲を見ても郵便局らしき場所は見あたらず、正体不明。マンホールの蓋を開けて、手紙を投函してみたくなる。



「路上観察学会小倉支部」

偶然知り合った、本家・路上観察学会創設時のメンバーである九州大学大学院教授・藤原恵洋先生に触発され、小倉支部設立を決意。芸術作品とは違い、役に立たない階段や電信柱や張り紙など、そこに思想も心も詰まっていないからこそ魅力的な物件を探し出し、観察を続けている。

北九州市 未登録 文化財 第一章



- 一、いったいこれって何？
- 二、クスツと笑える。
- 三、疑問と笑いの先に答えがあること。
- 四、建造物、自然産物、工芸・彫刻品などは、北九州市内の所産であること。
- 五、四のそばにひとの存在あり。
- 六、四のそばに風土あり。伝説・迷信の後ろに史実あり。
- 七、作り手や継承者など、五にあたるひとに並々ならぬ気概や熱意、反骨の精神とホスピタリティを感じられること。あるいは、社会的評価を望むことなくひたすらに仕事を続けていること。

以上が北九州市未登録文化財7カ条也。
さあ、街に出よう。

写真：長野陽 題字：牧野伊三夫 文：姜尚美・つるやもこ



大庭美智子さんの

たばこ箱細工。



昭和20年代に発売された両切りたばこ「しんせい」のパッケージの、茶色い縞の部分を集めて作った馬の親子。右ページ・上／笠や火袋のつくり目目を奪われる灯籠。鹿盤銘柄「トーク」の樹木のロゴ

を幾重にも折り束ねて浮かび上がらせた、左の灯籠の笠が素晴らしい。右ページ・下／鶴・松・龍の和傘。着色したつまようじの傘骨、金糸の縁かがり、紅白のふさもすべて大庭さんの手仕事によるもの。

それは偶然の出会いだった。『雲のうえ』編集委員のM氏とA氏が、取材で若松区にあるラーメン店を訪れた日のことである。

そこは小さな店だったので、しばらくすると両氏は必要最少の取材スタッフを残し、飲み物でも買おうとぶらぶら老松市場のほうへ歩き出した。と、市場の向かい側にある1軒のたばこ屋さんがどうも気になる。たばこが並んでいるはずのガラスケースに、何やら立体的な紙細工が所狭しと並んでいるのだ。トランプ柄の傘、笠をかぶったたぬき、行進するペンギンたち……。近づいて

見てみると、それらは「マイルドセブン」や「ハイライト」といった、たばこ箱の厚紙でできている。トランプ柄の傘などは、同じ銘柄のブルーの部分を少しずつずらして連続的に折り束ね、絶妙な間合いで柄が出ている。そのまま吸い込まれるように店の奥へと歩を進めると、「ホープ」のフランス人形、「キャビン」のだるま、「セブンスター」の灯笼と、さらに技ありの「大物」がケースにずらり。今では見ない銘柄を使ったものもある。

名づけて、「たばこ箱細工」。嫌煙だ分煙だと五月蠅いこのご時世に生まれたものではあるまい。古き良き愛煙時代の結晶と

もいべき工芸品に、ふたりはほれぼれ、大興奮。「ご自分で作られたんですか」「どうやって作るんですか」と、作者とおぼしき店番のおばあちゃんを質問攻め。ひとしきり大騒ぎした後、話を聞かせてもらった御礼にと数日分のたばこを買い込むと、「お好きな、持ってってください」と言われたため、A氏はかつて愛飲していた廃盤たばこ「ミニ・スター」の傘をありがたく頂戴したのだという。

あのおばあちゃんに会いに行こう。そんなM&A氏の発案で、われら北九州市未登録文化財調査団は、若松区老松の『大庭商店』にやってきた。応対してくれたのはもちろんその人、店主の大庭美智子さんである。

「傘は（作り始めて）ずいぶん長いんですよ。このゲージを使ってね、たばこのカラ（空き箱）を切って、折って、糊をつけて作ります」そう説明しながら、缶ケースにきれいに整頓された製作道具を見せてくれた。

大庭さんは、八幡東区枝光生まれの86歳。若松には、実家がたばこ屋さんである夫の美登さんとの結婚を機にやってきた。たばこ箱細工を始めたのは、昭和47年の春。「チェリー」というたばこが売り出し中の頃だった。

「あるとき、近所の方が、『ポートルレース場でたばこのカラで作った傘を見ましたよ。ちよっと教わってきましようね』って言った



右より、「ミスター・スリム」の笠をかぶったたぬき、「ホープ」のフランス人形、「マイルドセブン」のペレー帽が似合うおしゃまん、大ゴマ（ちゃんと回ります）、今にも動き出しそうなペンギン3兄弟。掲載の作品は、大庭さんの店を発見した『雲のうえ』編集委員のM氏とA氏（性別・男。共に四十路後半）が、特に感銘を受けたものを選ばせていただきました。



上／日本航空のマークを再現した傘と手描きの寸法表。右上／おかつぱが愛らしい市松人形。昔の「ハイライト」のカートン包装紙で作ったひな壇も素敵。右下／傘作りに欠かせない手作りのゲージ。下／「マイルドセブン」と「ミスター・スリム」のねずみ。左ページ／紬の着物に花柄の割烹着が似合う大庭さん。自動販売機のたばこが切れたときは、たばこ箱細工のかごに商品を入れて補充する。



んです。それでその方が帰ってきて、『四角に切って、三角に折って、とじてあった』って。それを聞いて私、主人が吸った『チェリー』のカラで作ったですよ。そしたらね、できた』手先の器用な大庭さん、なんと実物を見ることなく「伝聞」で傘を作り上げてしまった。その傘を見てひらめいたのは、美登さん。当時、若松区のたばこ店200店舗以上が加盟する販売協同組合の理事を務めていたこともあり、「これはいい宣伝になる」と大発奮。たばこの専売公社事務所の所長に傘を見せると、すぐに講習会を開くよう頼まれた。

空き箱の紙束を手に、店へやってきた。「『30枚持参したら傘と交換してくれる、と新聞に書いてあった』と言うんです。確かに私、新聞社の方に、傘1本作るのに30枚くらい要ります、って言いました。だけど交換するとは言ってない(笑)。でもその方、門司から見えてるんです。遠くからおいでなのに、と思って、作ったのをひとつあげました」

「昔っから、ここまでやるって決めたら、するんです。途中でやめたくないんです」22年前に他界した美登さんは、再婚だった。夫の娘と息子に会ったときにも、子供はつくらないとひとりひそかに心を決めた。子供をつくれば、子供たち同士が気を遣うから。「さみしかろ、って言われるけど、それが私の務めだから。今もそれでよかったと思う」

「それから私、ずっと役員のたばこ店の方、婦人会の方、一般の方に教えられました。戸畑どだた、小倉、下関からも習いに来られました」大庭さんの指導によって、傘作りはたちまち流行。若松区に至っては、ほぼすべてのたばこ店が作り始め、各店の軒先をたばこ箱の傘で飾る「傘まつり」なるものも開催された。「それから全国的に広がったですよ。福岡大会、全国大会も開かれて、私も出品しました。見に行ったら、まあ、いろんなのがある。私もそこでいろいろ習って、作りよりました」

新聞の誤りを怒る前に、記事を信じて訪ねてきたお客さんを氣遣うところが、やさしい大庭さんらしい。ともかくそのあたりから、徐々に増える店先のたばこ箱細工に目をとめたお客さんと、話し込むことも多くなった。中には「売ってくれ」と言う人も。「売るのは絶対、しないんです。興味を持ってくださって、お話がはずんで、この方にあ



そのうち傘は和傘・洋傘の2種類になり、人形、かご、のれん、つづみと次々に新作が誕生。店番をしながらせっせと手を動かす大庭さんを見て、お客さんが空き箱を持ってきてくれたり、専売公社から売れ残りのたばこの空き箱が大量に送られてきたりもした。そんなある日。とあるお客さんがたばこの

の生き方が、たばこ箱細工の折り目ひとつひとつに、清潔な美しさを与えている気がする。「上手とかやないけどね。自分がしてみようと思うことを、してみるだけです」

帰り際、大庭さんが、たばこ箱の洋傘を1本くれた。可憐な見た目に反して、ずっしりと重かった。それは熟した果実のような、心地よい重さだった。



丸尾龍一くんの

デコチャリ。

未
文化登州
財録市

ファンッ!

1月の冷たい空気を、ラップのような破裂音がつんざいた。遠くに聞こえるは映画『トラック野郎』のテーマ曲「一番星ブルース」。近づく菅原文太の歌声。次の瞬間、曲がり角から、銀白色のいかつい造形物が現れた。

ひとことと言うなら「生後1カ月のガンダム」。自身の体重に耐えかねて小刻みに揺れながら走るそれは、門司区吉志に住む丸尾龍一まるお くりゅういちくんの愛車だ。世に言う「デコチャリ」である。すごいねえ! それ、名前はあなの?

「龍一丸、です」

へー、格好いい。改造公認車、って書いてあるけど、誰に公認されてるの?

「笑」

自称ですか?

「まあ……そうかな」

どうやらドライバーは寡黙なタイプ。彼に代わり、ざっと龍一丸の仕様を説明しよう。

外装パーツは、すのこやプラスチック板で製作。家庭用アルミホイールをふんだんに使い、どうにか高級ステンレスの輝きを捻出した。

電飾パーツや音響パーツもすべて自作。配線が多くなりすぎ、もはや自分でもどうなっているのか定かでないが、点滅ランプやBGM用スピーカーのコンディションは抜群だ。

「街道の流れ星」「夜に花咲くロマンスカー」の勘亭流文字はもちろんマジックでの自筆。

自転車ながら、車輪に板をかませる「バリバリ」と擬似マフラー音をふかすことも

可能。なお、冒頭で「ファンッ!」と鳴ったエアホーンは、トラック専用の本物である。ナンバープレートの「116」は、誕生日の1月16日。先日、17歳になったばかりだ。もうおわかりだろうか。彼はデコトラにあこがれるも、まだ車の免許が取れないために、ほとぼるの情熱がいったん自転車に向かってしまった、デコチャリ少年なのである。



デコチャリの存在を知ったのは、12歳の頃。「本屋で見たトラック雑誌にそんなのが載ってたっけ」、見よう見まねで製作を始めた。

中学は普通校だったが、その後、満を持して豊国学園高等学校の自動車科へ。部活も当然、自動車部。帰宅すると、作業服専門店『無法松』で買い揃えた上下にすぐさま着替え、習ったばかりの配線や溶接を駆使して、デコ

チャリ製作に没頭。走行性チェックの際に邪魔になるので、ヘアスタイルは常に角刈りだ。「そこらじゅうを走り回ってるので、近所の方がみんな知ってるんですよ。この間もお世話になってる車検屋さん、そこらの整備士より上手なんやないん?」って。最初は「ピザの宅配?」とか言われてたんですけどね。苦笑しながら話すのは、母の敏子さんだ。

「服もねまき以外は全部アレ。どこへ行くにもアレ。だから一緒に買い物行きたくないんですよお」(笑)

そう言いつつも敏子さんの表情には、息子を応援する親心があふれている。祖父も自分の畑のそばに雨よけテント付きの駐輪小屋(龍一くんは「車庫」と呼ぶ)を作り、孫にエールを送る。ただ、2人の弟は「友達にいろいろ言われるから迷惑がってる」らしい。むずかしい年頃だ。

外が寒いので、龍一くんの部屋で話の続きを聞くことになった。壁は一面デコトラ・ポスター、本棚もす

べてデコトラ雑誌だ。1年前にアマチュア無線の資格を取ったので、最近は、無線機でトラックの運転手さんと周波数をリポートし合っている。本当に好きなんだなあ。そう感じしていると、龍一くんが、おもむろにDVDをセットし始めた。デコトラ・イベントの映像のようだ。場所は、遠賀川の河川敷。「これが九州で一番でかいイベントです」



夜に花咲くロマンスカー、「龍一丸」見参。手作りの跡が満載だった昼間の姿とは違ってかわった、あっぱれのデコトラ感。よっ、一番星。右ページ/龍一丸の“運転席”。ワンセグTVにCDプレイヤー、そして自転車なのに、なぜかギアチェンジバーとバックモニターも完備。

丸尾龍一くんと母の敏子さん。デコチャリ製作に忙しい龍一くんは現在アルバイトはしていない。ということは、製作の“出資者”は敏子さん？「ほらほら、迷惑かけてまーす。って言いなさい!」。左ページ/たまたま遊びに来ていたデコチャリ仲間、矢狹一輝くん(小学4年)の所有車。製作・保管・メンテナンスは「ぜんぶ龍一兄ちゃんがやってくれる」。



と、そのとき。人だかりにもまれる「龍一丸」と書かれたデコチャリが。

「相当、前のヤツです」

画面の中には、嬉しそうにはにかむ中学生の龍一くん。周囲の人は、歓声をあげている。イベントには、北九州の直方のちかた、鹿児島県佐賀県、大分県、熊本県など、開催のたび、龍一丸持参で足を運ぶ。そこでデコトラ運転手さんたちとも仲良くなり、顔見知りも増えてきた。でも、九州のイベントにデコチャリを持ってくる人は、なかなかいないらしい。

「関東とか北海道に行ったら、ちよくちよく来よるとは聞いたんですけど。今、九州におらんのや、デコチャリが……」

龍一くん、どうやら仲間が欲しい様子。同級生には、「乗りたいがる人はおっても、作る人がおらん」そうだ。ちなみにバイクには興味がない。あくまでデコトラ製作を見据えてのデコチャリ製作なのである。

壁に1枚、手作りのチラシが張ってあるのが目にとまった。龍一くん率いるデコチャリグループ「龍一丸船団」の新規メンバー募集告知だ。どう、メンバーは集まった？

「いや……このチラシはまだどこにも出してないんで。とりあえず作っただけなんです」船団を率いるには、17歳はまだ若すぎるのか。話題を変え、来年18歳を迎えて免許が取れたら最初に何がしたいか、聞いてみた。

「いきなりトラックは乗れんので、私有地とかで、知り合いの運転手さんのデコトラを

触らせてもらおうかなと思います」

ここでふと、気になった。今は離婚し、別々に暮らしているが、敏子さんから、龍一くんの父はタンクローリーの運転手だったと聞いていた。トラックへのあこがれは、お父さんの影響も、あるのだろうか。



「それもあるかもしれないです。でも、わからん。きっかけをイマイチ覚えとらん」

龍一くんはすぐにそう言い直した。北九州のことで「雪がばんばん降りよる」、その日の夜。電飾パーツ全開の龍一丸を撮影するため、再び丸尾家にやってきた。

昼間よりぐっと冷えたが、龍一くんは電飾点灯を万全にすべく、何時間も前からデコチャリの点検をしてくれていたみたいだった。いざ、点灯。カラフルな電飾が闇夜に輝く。一同喝采、まさに街道の流れ星。しかし、夜の暗さと電飾の明るさのギャップが激しく、撮影は難航。雪降る中、龍一くんは微動だにせず、指示されたポーズをとり続ける。いよいよ電器店で照明器具を買ってこようと決まったときも、部屋のデスクライトを持ってきて、ひとり、龍一丸を照らしてくれている。ようやく撮影を再開した、そのとき。家から弟くんが出てきて、龍一くんに「うるせえ」と小さく言い放った。小音量ではあったが、龍一丸から流れていたBGMが気に障ったらしい。龍一くんは一瞬、唇をきゅつと結んだが、すぐに前を向き直し、撮影班に指示されたポーズを再びじつとキープしてくれていた。

許せ弟。気持ちはわかる。でも、きみの兄貴はイカしてる。きつともうすぐわかるはず。2時間以上かけて、撮影は無事に終わった。みんなくたくた、放心状態。その帰り際。ファ、ファンッ!

立ち去る取材チームの車にホーンの挨拶。見送りを忘れない、龍一くんなのだ。

全国デコトラ関係者の皆様、デコトラを愛してやまない青年が、まもなくそちらの世界へ参ります。律儀でかいがいしい青年です。少しシャイです。外野の分際ではございますが、彼をよろしくお願いします。

しなやかな肢体にバスタのような頭。街の人がつけた愛称は「マカロニ星人」。ほかにも、「ちくわ女」「ちくわぶ人形」「ちくわお化け」などなど、よくも悪くも自由と呼ばれ放題である。

彼女の本名は「宇宙七曜星の精」。七曜だけに、月・火・水・木・金・土・日と、じつは7人いる。小倉の商業中心地と城内をつなぐ「中の橋(太陽の橋)」の上を、優雅に並んで歩いているのだ。

街の噂では、この7人には仕掛けがある。マカロニ頭の中心は空洞になっていて、そこに太陽の光が射し込むことによって影がひまわりの花になるといのだ。でも、どこに、いつ、花が咲くのかはつきりした答えは公になっていない。そこで、昭和63年に橋が着工してから完成までの4年間、市役所で業務に携わったという堤清さんに聞いた。ひまわりの花は本当に見られるのですか？

「だいたい春分・秋分前後に花が咲きますね。でもわざとはつきりした日にちは公開していません。そのほうが夢があるでしょう」と、かわされた。堤さん曰く、オブジェの作者、トリックアートの先駆者でグラフィックデザイナーの福田繁雄氏自身が、いたずらっ子のような人物だったとのこと。緻密に計算を重ねた作品だが、答えは鑑賞者に委ねたい。

この噂で、橋を通る人の歩みが少しだけゆっくりになれば、作戦成功である。



マカロニ星人と呼ばれて。

北九州市
未登録
文化財

街を流れる紫川には10本の橋が架かっている。太陽の橋は緩やかにアーチを描いていて、橋の杖にかがんで対岸を眺めると、市の花でもあるひまわりのタイル画を鑑賞することができる。



若松埋め立て物語。

北九州市
未登録
文化財



左は、合併以前の昭和28年発行「若松市 市政40周年」記載の若松市全図。右上に、駆逐艦「柳」と、第2次世界大戦に参加した2艦「冬月」「涼月」を3艦運んで、防波堤を築いているのが見て取れる。資料提供「北九州市旧古河鉱業若松ビル」

洞海湾から響灘に続く海岸線に面している。この防波堤は、風変わりな形をしている。コンクリートから飛び出しているのは、全長10m弱のアーモンド形なのが1いであらう。じつはこののでっぱり、もとは軍艦。第1次世界大戦で使用された駆逐艦(護衛艦)「柳」が、コンクリートに埋め込まれる形で残っている。

終戦後、旧日本海軍所属の軍艦は、戦時賠償として連合国に取られたり、解体されるなどして、多くが姿を消した。でも、そのうちのいくつかは、このような形で全国各地の海岸で再利用されたのだ。戦火をくぐり抜けた丈夫な鉄の塊とはいえ、なんとも大胆で強引な再利用方法に、びっくりするやら感心するやら。

ところで、この防波堤が設置された昭和23年当時比べて、若松区の海岸線はだいぶ姿を変えている。洞海湾へ出入港する船舶を外洋の高波から保護するため、に設けられた防波堤は、じつは、現在船体が見えている駆逐艦「柳」を先頭に、さらに2艦を連ねて作られていた。3艦連結式とも呼べるそれは当初、響灘に突き出るように勇ましく延びていたが、戦後、埋め立て地が造成され、沖へと工業地帯が発展していくに従って、陸に飲み込まれるように短くなってしまったのだ。東の対岸(戸畑区)には今、新日鉄八幡製鐵所の広大な土地が広がる。軍艦防波堤は、戦後の人々の気骨と工業の発展を見守り続けてきたのだ。

須賀神社の別名は「若一王子社」。「にゃっ
こうじさん」と呼ばれ親しまれている。歴史
は古く、創建は平安時代初期。須佐之男
命の化身と名乗る童子のお告げで、宮が
建てられたという逸話が残っている。

小倉北区にある須賀神社の入口で、宮
司さんと待ち合わせた。境内へと延びる
長い階段の手前には、「噂の狛犬」が鎮
座している。挨拶もそこそこに、さっそ
く尋ねる。「この狛犬、落ちてはいるん
ですか？ 登っているんですか？」すると、
「さあ、狛犬に聞かんとわしやわからん
ね」と、あっさりとした答えが返ってき
た。大正13年生まれのお宮司・森山さんの
記憶によれば、物心がついた頃には狛犬
はここにおり、父親から珍しいものだ
と聞かされていたそう。

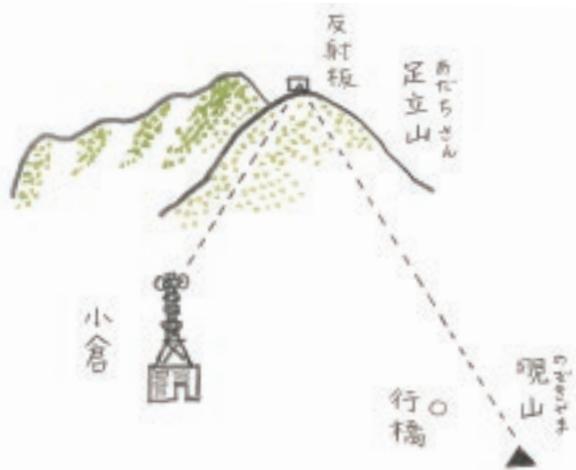
狛犬のルーツをたどれば平安時代まで
遡る。もとは宮中の君主の守護獣の役割
を担うもので、庶民が祭る村社などに奉
納されるようになったのは、江戸時代以
降と、もの本には書いてある。地元の
石工によって、「狛犬」が霊獣ではなく、
素朴な犬の体で自由に作られ始めたのも、
同じ時期だという。

ところで謎の狛犬だが、台座に彫られ
たわずかな形跡をたどれば、「大正10年
10月吉日」と読める。奉納者のお名前は
消えかかってわからずじまいだったが、
遊び心がありすぎる作者であることは間
違いない。そんな狛犬を素直に受け取り、
参道に鎮座させた森山氏の祖父と父もま
た、おおらかな方である。

よく見るとこの「阿像」、丸くかわい
らしいお尻とは裏腹に、正面から見ると
敵めしいお顔をしている。やむをえぬ事
情で台座を辞したが、守護獣としてのプ
ライドは決して譲れないのであろう。

落ちるか、登るか。





国土交通省北九州国道事務所には、この通信網を管理する心臓部がある。ネットワーク網の監視体制を整備している同省からの委託を受けて、業務に就く石山裕さんは朝8:30から17:15までこの部屋を離れることなく、データ管理や障害対応、点検などを行っている。ちなみにお弁当もこの部屋で。「梅雨時期の雨量の増加や、ゲリラ豪雨のときは、特に緊張します」

緩やかな尾根は見る方向によってあらゆる表情に変わり、木々は季節によって色を変える。街の南に広がる足立山は市民に愛されている山である。

その頂に、いつの頃からか四角い白い板のようなものが設置された。太陽の方向によってキラリと光って見えることもある。ぼくらの足立山にいったい何が。心配する編集委員のM氏の希望で調べてみると、意外なものであることが判明した。

たどり着いた先は、国土交通省九州地方整備局である。国の機関が足立山に設置したものは、通信網の中継地点だったのだ。白い板はただの板ではなく、「多重通信回線網」の電波反射板。災害などで民間の回線が寸断された際に、マイクロ回線網とファイバernetを(多重に)駆使して、情報をやりとりする通信網を、30年ほど前からコツコツと作り上げてきたのだという。素朴な疑問が、壮大な国策を知るチャンスに結びついた。

この情報通信ネットワークは、全国の国土交通省の拠点や道府県や市町村と連携していて、全国の主要な山という山やビルというビルを介して、何本もの線でつながっているらしい。系統図なるものを見せてもらおうと、たとえば、行橋市と北九州市を結ぶ線は、観山と足立山を介してつながっている。

山は、美しいのみならず偉大である。

頂にキラリ。



北九州で一番小さな花屋さんですよ

フローリスト

街の灯

TEL.FAX 093-962-1851

チャーリーに会いに来て!



花屋の
チャーリー。

北九州市
未登録
文化財



小倉絶景。

北九州市
未登録
文化財

2m × 2m ほどの監視所の側面には平たい窓が。風が吹き抜ける冷たい箱の中で、敵機の襲来を監視し続けた人の気持ちを慮ると、広がる絶景を眺める目も変わる。一般見学は不可。

北に小倉城、振り向けば、足立山の山並みが優美だ。東には住友金属のシンボル、赤と白のしましまの煙突から元気に煙が立ちのぼっているのが見えた。本日快晴、まさしく絶景。

小倉の商業のど真ん中、魚町のとあるビルの屋上にいた。ここに、コンクリート製の「小屋」がひっそりと建っているのが見つかったのは、つい2年ほど前のことだ。ビルは昭和11(1936)年に建てられたもので、当時は「かねやす百貨店」として営業をしていた。今は閉店してテナントが変わっているが、共用階段のタイルや手すり、窓などの随所に、アールヌーボー調の装飾が残されているのを見ると、さぞモダンな建物だったに違いない。聞けば、当時としては貴重な鉄筋コンクリート製の建物で、小倉一の高さを誇っていたのだという。

では、この小倉一のビルの天辺に作られた小屋の正体は何か。

それは、敵機監視所。戦時中に敵の攻撃機が飛んでくるのをいち早く見つけるために後から増築されたものだ。戦時中、小倉には西日本最大の兵器工場があった。それゆえに、原爆投下の候補地であったことも、市民ならば誰もが知り得ていること。そう、この街はかつて軍都だった。隣接していた立体駐車場が取り壊されたとき、ひよっこり姿を現したという小屋。約70年のかくれんぼを経て、ようやく日の目を見たのである。

「これ、差し入れやけ。皆さんどうぞ」
 そう言いながら、沿道の花屋さんを飛び出してきたのはあのチャップリン。まさか差し入れは煮込んだ革靴？ と思いきや、袋の中身は、おまんじゅうとりポピタンDだった。小倉南区星和台。その花屋の名は『街の灯』。由来はもちろん、浮浪者と花売り娘の恋を描いたチャールズ・チャップリンの名作である。「チャールリーはね」

一人称はチャールリーである。

「チャールリーはね、日本で2番目に好きな人じゃないかってくらいチャップリンが好きでした。あ、1番目は淀川長治さんですね。小学生のとき、その淀川さんが解説を務める『日曜洋画劇場』というテレビ番組で、『街の灯』を見たんです。それで衝撃を受けまして」

チャールリーこと早高昌平さんが店を開店したのは平成3年。もとは新日本製鐵の下請け工場に勤めていたが、20歳の頃に転職を余儀なくされ、花屋さんで10年修業。「店を持つならチャップリンの格好で、屋号は『街の灯』に」との夢は、その頃に温めたものだ。

さらにその間、バスで東京へ毎週末通い詰め、世界的に有名なパントマイマーに師事した経歴も。チャップリンに私淑しているのだ。そんな早高さんの店には、たくさんの子供たちが遊びに来る。そのうちの30人ほどには、フラワーデザインも教えている。

「好きなときに好きな器を持つといいで、10分で教えてあげるからと言ってます」

月謝も、花代も、もらわない。

「今は難しい世の中やけ、息抜きになってくれればいいなと。一輪の花に目がいった数秒が、あんたらの深呼吸の時間になるからと」

そんなやりとりを見た、ある学校からの依頼がきっかけとなり、現在、早高さんは「チャールリータイム」という名の課外授業を北九州市内の学校で行う。市内の中学校はほ



店内には商業体験で訪れた高校生たちの写真が。ルールはひとつ、「チャールリーのメイクで花を配達すること」。3日間皆勤すると蝶ネクタイと山高帽が贈られる。

ぼすべて回り、南曾根中学校ではもう3回目だ。「フラワーデザインをしながら、夢をつかめ、希望を持って、頑張らなくていいからあきらめるな、というトークをします」

授業の最後にはアンケート用紙を配り、「尊敬する人」「将来の夢」を書いてもらう。

「いつとき、将来の夢を書く欄に『会社を乗っ取る』なんて書いとる子が何人もあった

け、その子ら呼び出して『人のもん取らんと自分で作ったらよかるうもん』と言いました」中には、「帰れ」「×」などと書く子もいる。「誰か！ つまらんどこんなん書くやつはと怒り、その子の親御さんにも何か言いたいことあれば店に来てください、と言いますね」あくまでサシで勝負するチャールリー。その使命感はいったいどこから来るのだろうか。

「使命感なんちゅうものはないです。ぶしつけないことされたら私は怒る。ただそれだけ」

そんな裏表のないチャールリーが、子供たちは大好きだ。彼らの夢をこわしたくないので、早高さんは自宅でメイクしてから出勤する。

が、納品でバタバタしていたある日。ノーマイクのまま店で用事をしていたら、馴染みの子が、不思議そうに店を覗き込んでいた。

「……チャールリーは、まだ来んと？」

逃げも隠れもできない2坪の空間。

「も、もうすぐ来るんやない？」

早高さん、思わず声色を使って乗り切った。

その子供たちは、大人になったとき、あのおじさんはいったい何者だったんだろう、とふと

我に返ることだろう。何の義理もないのに、叱ってくれた。教えてくれた。励ましてくれた。ひ

まつぶしに付き合ってくれた。それが、大人になったからといって誰もがができるわけではないことを、大人になって知るだろう。

早高さんは、今日も2坪の舞台でとっておきのパントマイムを演じている。「厳しくも面白い近所のおじさん」という名の役柄を。



鉄の忘れ形見。



50cm×180cmの鉄の柱を1200℃に熱して、圧力を変えながら叩きつぶす。製鉄に従事する技術者として作り上げた作品。大地を空と見立て、天辺に見えない地球が乗るイメージで制作した。逆さまにかかる重力は地球環境への警鐘でもある。

錆びた鉄が住宅街の緑道の中に突如としてあった。ミニチュアダックスフントを連れたご婦人が、「それ、いいでしょう？ 私好きよ。でも、あんまり知ってない人いないのよね、もったいないわ」と言いながら通り過ぎていった。
地面に埋め込まれたプレートを見つけ、文字をたどると、「故・ニコルソン中尉に捧げる」とある。終戦まもない昭和22（1947）年、アメリカ中尉、ロドニー・ニコルソン氏が操縦していた飛行機に不具合が生じ、彼は眼下に広がる住宅地を避けて、近くの空き地に墜落した。彫刻は、操縦桿を最後まで離すことなく逝った彼の人道的行為を讃える慰霊碑だった。「当時、三菱化成が所有していた空き地めがけて、目の前を飛行機が落ちていくのを目撃した人が何人もいたようです」
教えてくれたのは彫刻の作者で、製鉄や石炭産業などをテーマに作品を制作している母里聖徳氏。氏は、合理・利便・経済の追求のために生まれた近代産業の技術をもって表現活動をすることで、いまや「資源」としか捉えられていない鉄や石炭は、もともと有機的なものであることを、みなに思い出してほしいという産業と芸術。一見相容れない存在を人が触媒となつて結びつける。戦争と平和飛行機を操縦していた人物が、敵国の男でなくても、ここまでの賞賛を受けたのだろうか。憎むか愛するかを決めるのもまた、人なのである。

ガンモあります。



菊地範人・智子さん夫婦で切り盛りする「菊地ガンモ店」。放課後になると子どもたちがおこづかいを握りしめてやってくる。店構え同様、変わらぬ風景だ。



菊地智子さん（ちこ）が、よく通る声で話したかね。ここはもともと私の兄の家で、最初はなんもわからんと商売を小さく始めたんよ。今の店の3分の1くらいに広さに、味噌や醤油、豆腐なんかを並べてね。パンや駄菓子（だ菓子）を始めて、なんぼか良くなつたかなあと思つたら、ちよつとずつお店の面積を大きくしていったの。店の脇（写真向かって右側）には昔、川が流れとつてね。川を境に学区が分かれて、古前小学校と藤木小学校とふたつの学校が当時からあつたんよ。両方から子供たちがやってくる、今でもね。
天井には、船や電車の模型（プラモデル）をずらりと並べてね。そんなん置きたしたから、店の名前は「ガンモ堂」。「玩具と模型」ね。お父さんがパツと思つたの。看板は、かわいいなあと思つた絵本の絵を集めてきて、職人さんに頼んで描いてもらった。2年前に息子に塗り直してもらつたとき、「堂」を「店」に変えたんよ。店に友達を連れてきよつた息子も、もう50なんぼになりますからね。子供だった子らも、息子や娘と一緒に、おばちゃん元気？ てやって来るけんね。頑張らんといいけんです」
かつてどこの街角にも、子供を見守る交番のような商店があつた。今では貴重な存在なのである。



大迫さん宅の玄関前。見た瞬間、「ほとぼる創作意欲」ということばが口について出た。奥に見えるビキニ姿の女性の彫刻は、妻のたみ子さんをモデルにしたもの。



セメント彫刻。

大迫さんの

北光市
未登録
文化財



透さんが夫婦で腰かけるために作った椅子。右ページ/左より時計回りに、掛け軸代わりに描いた床の間のコテ絵、強いメッセージを訴えかけるティディベア(?)、透さんの肖像彫刻、応接間の飾り棚、花瓶を食べるピラニア、ちび犬あるいは子羊。ちなみに仏壇の花もセメントでした。



「芸術は爆発だ」と言ったのは、岡本太郎。そのことを肌で理解したのは、小倉南区横代にある大迫さん宅を訪れたときである。大小さまざまな「彫刻」が出迎える一軒家。首を伸ばして挨拶するキリン。赤ちゃんをお腹にのせるパンダ。ウホウホ胸を叩くゴリラは、なぜか単車用ヘルメットをかぶっている。よく見ると動物だけではない。工事現場のおじさん、米俵に片尻をのせる布袋さん、帽子をかぶった地球儀とシュールなものまで、その数ざっと100以上。この独創的なオブジェは、左官職人の大迫透さんがコテ1本で作り上げた「セメント彫刻」なのである。

家の中も圧巻。天井には西洋風の漆喰彫刻。応接間には、左官職人が仕事を手がけた証に民家の壁などにコテで描き残す「コテ絵」もある。もちろん、透さんの手によるものだ。

「見らんでください。下手です。自分の好きなとーり、ただですけ」

大声で照れくさそうに、透さんが謙遜した。透さんは現在、82歳。昭和5年、鹿児島県の垂水に生まれた。15歳で満州に渡ったが、体が小さかったため徴兵検査に通らず、やむなく帰国。親戚を頼り、左官屋修業に入った。職人の世界は厳しかったが、押し入れに隠れて師匠の仕事を目で盗み、稽古を重ねた。

小倉で仕事をしてきた透さんは、同郷のたみ子さんと見合いで結婚。たみ子さんの第一印象は、「ばあちゃんやなア」だったそう。 「30歳過ぎとったからね。でもお父さん、





大迫透さん、たみ子さん夫婦。「左官屋の嫁は一生バケツを持たされる（手伝わされる）」とたみ子さんの家族は結婚に反対したが、「この人が私をパーツと連れていきよったんよ」。左ページ／透さんの

ベッド脇の壁にある大きなコテ絵。河原の部分には故郷・鹿児島島の溶岩がはめ込んである。天井の漆喰彫刻も透さんの仕事。写真のような菱形の彫刻を手がける左官職人はもう数少ないぞうだ。

大事にしてくれた。私、女学校のとくに結核やったんよ。お前は肺病やけ、めしも炊かんでええ、子育ても俺がやるちゅうて。だから私、茶碗も洗濯もんも洗いおらんかった」

しかしそこは、「仏さんと男は大事にしろ」と叩き込まれてきた鹿児島女のみ子さんと叩き好きの性格を生かして、隣近所を回っては、透さんの仕事を取ってきた。

「私は口がおしゃべりやけ、うちのお父さんは真面目ですよー」、そう言うて回るだけ（笑）」

二人三脚で頑張ること15年。ついに念願の家を建てることに。家は、透さんがありったけの夢を詰め込んで設計した。が、現場の設計士が難色を示した。

「左官屋が設計なんてしたらあかん、つて。私、言うた。悪いところあれば後でやり変えます、だからお父さんの言う通りしてください、つて」

実際、家が完成すると、近所中の人が写真を撮りに集まった。

「息子を出世させてくれた。そう言うて、お義母さんが泣いてくれました」

コテ一本で息子と娘も育て上げた。3人も立派に成人してくれたことが夫婦の誇りだ。そうして還暦を迎えた頃、いよいよ透さんの「創作活動」が始まる。時代の流れで左官仕事は減りつつあったが、職人の腕とは動い

ていないとうづくもの。そのときそばにあったのも、やはりコテだった。

「お父さんは午年生まれやけ、コテとセメントでお馬さんを作ったんよ。それが最初作りでしたら、はやーいはやい。到津の動物園行つて、あくる日にはキリンさんできとる」

土台にしているのは意外や、廃材。キリンの長い首の土台は、なんとゴルフバッグだ。



息子の良一さん曰く、まず廃材に綱や鉄筋を巻きつけて土台を作り、そこへコテでセメントを塗りながら成形していくのだが、この土台作りが簡単に真似できないという。

「ゾウさんの鼻ひとつとっても、私らがやると、らしくならないんです。土台の段階で、親父には完成図が見えてるんでしょうね」

そんな透さんの作品は近所でも大人気に。新作が並び始めると、わらわら人がやってきて、好きなものを持ち帰るのが恒例となった。作品総数は数えたことがない。しかし小さいキリンだけでも200以上は作り、誰かにもらわれていったというから、相当な数だ。「技術を持つとる、ちゅうのがすごい。それが体の中から出てくる、ちゅうのがすごい。体が小さいと国に帰された人がなあ」

たみ子さんの目がうるんでいる。「（左官屋になって）50年。50年経った。できたなあ、たまったなあ、こんなん作れてよかったなあと思う。悪いこと、ないもんなあ」透さんも大きく笑った。数年前に倒れ、右半身が不自由な透さん。しかし帰り際に握手をした左手は、さすが職人の握力だった。

その日、北九州市立文学館の「北九州の職場雑誌展」に立ち寄った。職場雑誌とは、北九州の労働者が働きながら編んだ文芸誌だ。そのひとつ、詩誌『浪漫』創刊号に小倉出身の作家・岩下俊作がことばを寄せていた。「こころのゆるみを一番恐れてゐるものは何時も何かしてゐなければ安定感を失つてゐるやつだ。動いてゐるもの、美しさを忘れることの出来ない人達の感じかも知れない」

動いているものの美しさを忘れることのない人。そのフレーズを目でなぞったとき、透さんのあの強い握力と、たくさんのセメント彫刻たちを思い出した。

「働く」という字は、人に動くとき書く。



木の上のゴリラ一家。

北九州市
未登録
文化財

公園のヤシの木は現在6本。ノッポのヤシは風が吹くとかなり揺れるが、一家には何のその。雨に当たって毛色も褪せてきたが、幸せそうに暮らしている。

戸畑区役所前の浅生1号公園は、国の無形重要文化財にも指定されている区の大祭・「戸畑祇園大山笠」の競演会場となる、神聖な場所だ。その一等地に、とある家族が住んでいる。ゴリラである。おそらく、木登り上手のニシローランドゴリラか。親子3人、高さ10mはあるヤシの木に、長い手を駆使してつかまっている。じつはこの親子、地元では超有名な(獣)。平成九(1997)年に突如雄ゴリラが出没。しばらく独り暮らしを続けていたが、9年後、道路拡張工事で当時の住まい(木)の伐採が決まり、引越しを余儀なくされ失踪。故郷アフリカへ帰ったかとも噂されたが、ほどなく家族を連れて戻ってきた。

さて、この逸話。一連の物語に関係している男性がいる。編集委員が某所で面会したのは、当時区役所の「まちづくり推進課」に所属していたT氏とN氏。今はそれぞれ別の部署で業務に当たっているが、当時の話になると少年のような笑顔を浮かべる。ふたりは道路拡張工事の際、雄ゴリラに家族を持たせてやりたいと、当時の区長を説得。寄付を募り、3匹同時におもちや屋にて新調。造園業者に頼んでこっそり取りつけた。「じつは、雄ゴリラは4代目。過去3代については区が把握しておるんですが、初代を取りつけたのが誰なのかは未だわかりませんが、謎は謎のままがよいときもあるでしょう」と、T氏はニヤリと笑った。

市の南東、周防灘に面して豊かな干潟が広がる朽網の住宅街に、突如盛り上がる巨岩。奇妙な光景に足を止めると、岩の上には石碑があり、帝踏石の文字が読める。傍らには、「景行12年、景行天皇が土蜘蛛(地方の抵抗勢力)を征伐しに行く際に、朽網の産土神(貴船神社)に祈って、この岩を蹴り上げた」と記されており、地元の人には「帝が踏んだ石」＝「帝踏石」と呼んでいる。景行天皇といえば、古事記・日本書紀に登場する第12代目天皇のことである。気が遠くなるような昔々の伝説が、民家に挟まれ埋没していた。でも、この巨岩、なんでここにあるの？

土地の史実に詳しい「朽網の郷土史を語る会」を訪ねると、案外簡単にその謎は解けた。「その巨岩は花崗岩。朽網の街自体がもともと巨大な岩盤を土台として成り立っている土地なんだよ」と、地元で陶工房を開く井上雅史氏が教えてくれる。花崗岩は、地下でマグマがゆっくりと冷却し鉱物が結晶化し、成長したものの。風化(真砂土化)すると、いい土になる。周辺で、登り窯跡や土器が多数発掘されているのが何よりの証拠、と。帝踏石は、風化が進んで角が取れ、球状化した岩の塊が地表にあらわになったものというわけだ。ここ以外にも大小の岩が朽網のあちこちに存在し、大切に祭られている。つまり大地はひとつ。伝説は地下でつながっていたのである。

朽網の目の前は、肥沃な干潟。江戸時代の新田干拓と昭和の埋め立てで平野が広がり、海岸線は沖合へ移動した。古地図によると、もともと帝踏石は海岸沿いにあったことがわかっている。



伝説と岩盤と。

北九州市
未登録
文化財

テント絵。

橋野文男さんの



ヘアにルールはない!



Hair Salon **TODÓ** 521 0910

橋野文男さんが描いた、理容店のテント絵。小倉南区北方の「ヘアサロンかんざき」（右ページ上）のテント絵は、じつは2代目。初代のテント絵が話題を呼び、北九州市内外含めて理容店ばかり8軒ほど手がけた。現在見ることができるのは写真の3軒のみだ。左ページは小倉北区南丘の「理容オカザキ」、右ページ下は小倉北区大島の「ヘアサロンとうどう」。

「ヘアーにルールはない！」
剃り込み入りのリーゼントに、髭をたくわえたその男。口答えしようものなら風が起きそうな鋭い目でねめつけながら、無難なヘアースタイルを選びがちな民衆を鼓舞している。いったいどんなヘアーになってしまおうのか？ 99%の期待と1%の不安を抱かせる大

胆不敵なこのテント絵は、小倉南区北方の理容室『ヘアーサロンかんざき』のもの。描いたのは八幡西区のテント職人、橋野文男さんだ。「あれはアメリカ人を描いた。外国人は目が青いやろ。鼻も高いからテントに映える」馬場山にある自宅兼仕事場で、文男さんが当時を振り返ってくれた。「ヘアーにルール

はない！」というキャッチフレーズはなぜ書き入れたんですか、と文男さんに尋ねると、「店主が言ったから書いた。だってヘアーにルールはないからね」と、真つすぐな目で答えられてしまった。あまり意識されていないことだが、テント職人は本来、絵を描かない。店舗の建物に合

わせて鉄骨を組み、テントを縫い、設置するのが主な仕事だ。屋号などの文字を書くことはたまにあるが、絵を入れる場合は看板屋さんに別注するのが通例だ。文男さんがすごいのは、テント職人でありながら絵も描いてしまうところ。そうなったのは、ずつとずつと、絵を描くことを仕事にしたいと願いつけてきたからなのである。

昭和8年、文男さんは、鹿児島県の甞島（こしじま）に5人兄弟の末っ子として生まれた。小学生の頃から絵を描くのが好きで、果物などを描くと、先生が「これ、誰が描いた」と言つて、教室の後ろに張り出してくれた。しかし、父が再婚した継母は、なぜか家で絵を描くことを



橋野文男さん、明子さん夫婦。ふたりの前に並ぶのは、文男さんが描いた水彩画。記憶を頼りに描いたという故郷・甞島の海の色があまりにきれいで、目にしみた。

許さなかった。それでも友達の家で使い古しの絵の具を譲ってもらい、こっそり描いた。

ひとりで食べていこうと漁師になったのは20歳の頃。2年ほど船に乗ったが、島を出たくなり、「2年間の実習後、静岡県でお茶作りに携われる」という謳い文句に誘われ、宮崎県で実習生となった。しかし、その制度が2年目にして廃止。仕方がないので大分県の親戚を頼つて1年半、建設現場で働いた。その後、福岡県嘉穂郡の炭鉱に入るが、ここも4年ほどで閉山。北九州へは、その後、新聞で見た和洋菓子店の求人を見てやってきた。その店では2年、あんこ練りをしたそうだ。

「ね、ツイてないでしょ」

炭鉱で働いていた頃に結婚した妻の明子さんが、わざとおどけた調子で明るく言った。まさに流浪の十数年。生き抜くのには必死で、絵を描く時間など全くなかった。

「生きるためには何でもせんならんかった。でも、いい仕事ないなあー、と思つとつた」そんな文男さんが絵を再開したのは、知人に勧められて製鉄会社の送迎運転手となったことがきっかけだ。とにかく嫌気がさすほど待ち時間が多い。その時間を利用して、チラシの裏に絵を描き始めた。

ある日、八幡製鐵の安全ポスターコンクールがあると知る。試しに出品してみたら、なんと文男さんの絵が1位2位を独占した。

やっぱり絵を描く仕事がしたい。そう思った文男さんは、北九州に明子さんを残し、単

身、山口県下松の日立製作所に行く。そこでは汽車を作っていたので、ペイントなどの描く仕事ができると思つたのだ。しかし結局、あてがわれたのは、危険な溶接の仕事だった。転職はもういやだ。落ち着きたい。辛抱して勤め続けていたら、ある日、血便が出てしまった。やむをえず北九州へ帰つた。

その頃、生活を支えていたのは、テント会社で縫製の仕事をしていた明子さんだ。

「会社の社長さんに家の事情をお話ししたら、『余生かたがた（その頃文男さんは34歳である）』、来てもらつたら」と言ってくれたので、お世話になることになったんです」社長は自分より年下。でも背に腹は代えられぬと、そこで3年、テント見習いを続けた。

37歳の頃、ついに独立。いよいよふたりに「繁忙期」が訪れる。当時急成長していた製パン会社「リョーユーパン」の営業マンが、「うちのパンを置いてくれたら、おたくの屋号入りのテントを提供しますよ」という営業セー

ルスを各商店にかけ始めたのだ。「これがね、もう大忙しの引っ張りだ。リョーユーさんが声をかけてるテント屋さんがいっつかあつたんですけどね、うちはこちら（文男さん）が絵も字も描きなさるでしょ。リョーユーさんのテントは子供さんの絵のマークを描かなきゃならなかつたんで、同じ値段で絵も字も描けるならこつちだ、って」時代が文男さんに追いついたのだ。文男さんは描いて、描いて、描きまくつた。納期を

気にする明子さんをよそに、まだまだ、あと少し、と自分が納得するまで、テントをキャンパスに、はけを絵筆に、絵を描いた。そうして「絵も描けるテント職人」が噂を呼び、依頼されて描いたのが、冒頭の「ヘアーにルールはない！」のテント絵なのである。辛抱だらけの人生。しかし文男さんは、ついに「絵を描く仕事」にたどり着いた。

「だいぶ描いたね。お客さんのおかげだよ。上達したもんね、どんどん」

現在79歳の文男さんは、長年の無理がたつたつて倒れてしまい、今は右手が動かない。しかし全くあきらめていない。左手で自らリハビリ機を作り、毎朝右半身を鍛えている。

「テント屋は絵が描けるから。自分の好きな仕事やから。絶対にやめん」

春になり、暖かくなれば、左手で絵を描くこともできるだろう。暖かくなつたら、一番最初に何が描きたいか、聞いてみた。

「風景」

間髪入れず、文男さんが答えた。

すべては今につながる。文男さんが、その紆余曲折の人生で見えてきた風景は、誰にも描けない風景ばかりだ。今、その胸の中には、どんな絵が描かれているだろう。その絵を思い、心がぐんぐまめられるのはなぜだろう。文男さんのテント絵を通して、絵というものを知る。文男さんの人生を通して、生き方というものを知る。

空に近い土俵。

自らも小学校時代は相撲大会に出場したことがある顧問の指導のもと、相撲クラブは現在11名で活動。うち女子部員は3名。大会前には公開練習で士気をあげる。



八幡西区・星ヶ丘小学校は、開校してからまだ11年しか経っていない。校舎はコンクリート造りのモダンな建物である。そんな近代的な学校の屋上に、まさか土俵があるとは！今回、各所への聞き込みで、八幡西区・東区は、昔から相撲大会がさかに行われてきた地区で、そんな慣例にならったか、校庭に土俵を備えている学校が多いことがわかった。では、なぜさかんになったかといえば、ひとつには地元企業・黒崎窯業（現・黒崎播磨株式会社）の存在が大きいという。高度成長期、最強の実業団相撲部が活動していたのだ。地域振興のためにも、区民同士で切磋琢磨してきたというわけだ。ここ星ヶ丘小学校でも、区内で伝統的に行われている「八幡西区南部六校小学校相撲大会」に出場すべく、相撲クラブが活動している。平成23年度は、5年生の部で金銀ダブル勝利し、団体戦では3位、女子部門でも優勝を勝ち取った。翌年度は5年生の部で優勝。6年生の部でも準優勝と連続快挙を成し遂げている。しかし、顧問の素村勇輝先生によれば、2年前までは予選敗退続きの弱小校だったようで、当時の校長にクラブ発足にひと役買ってほしいと泣きつかれ、お役目を引き受けたそうだ。

「まわしを締めるのが恥ずかしいという子を説得したり、体格の良い子をスカウトしまくって、ここまで来ました」

空に近い土俵の天下統一は、もう、すぐそこである。



驚きと笑いと感心の三位一体。 未登録文化財散策マップ。

絵=牧野伊三夫



〈小倉北区〉

- 小倉絶景。
1【敵機監視所】 p22
 小倉北区魚町 3-1-10
 ワシントンビル屋上
 *見学は不可。みかけ通り側から確認可能。

- マカロニ星人と呼ばれて。
2【宇宙七曜星の精】 p16
 小倉北区内1
 中の橋（太陽の橋）上

- 守るのは猪。
3【足立山妙見宮の狛猪】 p42
 小倉北区妙見町 17-1
 御祖神社 足立山妙見宮
 ☎ 093-921-2292

- 落ちるか、登るか。
4【須賀神社の狛犬】 p18
 小倉北区須賀町 12-24
 須賀神社

- 橋野文男さんのテント絵。
5【理容オカザキ】 p37
 小倉北区南丘 2-12-13
 ☎ 093-581-9845

- 橋野文男さんのテント絵。
6【ヘアーサロンとうどう】 p36
 小倉北区大畠 2-9-5
 ☎ 093-521-0910

* P28 ~ 33 掲載の大迫透さんのセメント彫刻に関しては、個人宅のため、詳細な場所を掲載することは控えています。

〈小倉南区〉

- 花屋のチャーリー。
7【街の灯】 p23
 小倉南区星和台 1-2-21
 ☎ 093-962-1851
 9:30 ~ 19:30 無休

- 頂にキラリ。
8【反射板】 p20
 小倉南区大字湯川字大谷
 足立山系砲台山山頂

- 伝説と岩盤と。
9【帝踏石】 p35
 小倉南区朽網西 2-30
 間 朽網の郷土史を語る会
 小倉南区大字朽網 1215-1
 東朽網市民センター内
 ☎ 093-475-8861

- 橋野文男さんのテント絵。
10【ヘアーサロンかんざき】 p36
 小倉南区北方 1-6-25
 ☎ 093-931-2198

〈門司区〉

- 丸尾龍一くんのデコチャリ。
11【デコチャリ出没地域】 p10
 九州自動車道に沿って走る
 国道25号線（門司 IC 周辺
 ~小倉東 IC 周辺）沿いが中心。

〈若松区〉

- 大庭美智子さんのたばこ箱細工。
12【大庭商店】 p5
 若松区老松 1-4-16
 ☎ 093-761-6167
 9:00 ~ 17:00 日・祝休

- 若松埋め立て物語。
13【軍艦防波堤】 p17
 若松区響町 1 付近

- ガンモあります。
14【菊地ガンモ店】 p27
 若松区宮丸 1-8-1
 ☎ 093-771-4037
 7:00 ~ 19:00 不定休

〈戸畑区〉

- 木の上のゴリラ一家。
15【浅生1号公園】 p34
 戸畑区千防 1-1-1

〈八幡西区〉

- 鉄の忘れ形見。
16【ニコルソンモニュメント】 p26
 八幡西区東王子町 8
- 空に近い土俵。
17【星ヶ丘小学校】 p40
 八幡西区星ヶ丘 2-7-1
 *見学不可。



守るのは猪。



足立山で暮らす猪が、参拝に？ 山を降りてくることもままある。宮司である磐梨文孝さんは、出会うたびに敬意を払いつつ、後ろに辞して退散すること。



「足が立つ」と書いて足立山。その山に社を構える御祖神社・足立山妙見宮は、健脚祈願の神社としても知られている。時は神護景雲3（769）年、称徳天皇の世。備前の国（岡山）の豪族の家系にあたる和氣清麻呂は、天皇の勅命を受けて、乱れた政を治めるべく、謀反を企てた僧侶・道鏡の野望を打ち砕いた。国を乗っ取ることに失敗した道鏡は、恨みの末に、清麻呂を大隅国（鹿児島）へと流してしまふ。

その道中、船が豊前の国、宇佐の海辺に着いたときのこと。道鏡の追っ手が迫り、清麻呂は足の筋を切られて、歩けなくなってしまう。こうして動けなくなった清麻呂の前に、突然現れたのが、数百頭もの猪の群れ。猪たちは、清麻呂を救い上げると、宇佐神宮へと導いた。清麻呂はそこで、竹和山（現在は足立山）の麓にある石川村（今の小倉南区湯川）の霊泉に足を浸せば傷が癒えるとの神のお告げを聞き、その通りにしたところ、足の傷はたちまち癒えたという。

御祖神社・足立山妙見宮は、都に戻った和氣清麻呂が四男を遣わして創建させた社。清麻呂を救った猪が、真の靈獣だったかは、今となってはわからないが、猪は妙見さんの守り神として、今日まで大切にされてきた。猪が狛犬の代わりに鎮座する理由はもう、おわかりだろう。

う
み
だ
す



たとえば蝶が飛ぶメカニズムをロボットに応用したり、
光合成のしくみを太陽光発電に結び付けて考えたり。
不可能を可能に。夢を現実にするのは、しなやかな発想力です。
九州工業大学が大切にしているのは「人づくり」と「ものづくり」。
自然や人の感性の中にヒントを見つけ、自由な発想でつなぎ合わせて
予想を超える新しいものを創り出していく。
今日もキャンパスで学生たちが新しい何かをうみだす力を蓄えています。

Create
Kyushu Institute of Technology
<http://www.kyutech.ac.jp>

工学部 / 大学院工学府 (戸畑キャンパス) 情報工学部 / 大学院情報工学府 (飯塚キャンパス) 大学院生命体工学研究科 (若松キャンパス)
福岡県北九州市戸畑区仙水町1-1 093-884-3007 (総務課)

国立大学法人
九州工業大学

STARFLYER

CREDIT CARD × MILEAGE

STARFLYER CARD

デザインで選ぶステイタス。



美しき時の世界をその手に。



INSTRUMENTS FOR PROFESSIONALS™



CHRONOMAT 44

おかげさまで80周年



ブライトリング正規取扱店

KOBAYASHI
JEWEL & WATCH

株式会社 小林時計店

営業時間 / 10:00~19:30 Tel.093-521-0013

北九州市小倉北区魚町1丁目3-6 (魚町銀天街)

<http://kobayashi-tokeiten.com/>

年会費 永年無料*

マイレージ機能付クレジットカード

*VISAカードの年会費は初年度無料、2年目以降は条件を満たせば無料となります。

詳しくは
www.starflyer.jp
マイページ機能などWEBが使いやすくなりました

Good Design J 「新日本様式」 *カードはイメージです。

安産・子授け・良縁
厄除け・万病平癒



淡島神社

福岡県北九州市門司区奥田4-9-5
TEL.093-371-8428

www.awashimajinja.com

Granville
薪ストーブ
WOOD STOBES
ガス暖炉
GAS STOBES

てあ、薪ストーブのある暮らし、はじめませんか？

〒803-0186 北九州市小倉南区新道寺106-1
TEL.093-452-3527 FAX.093-452-3527

Granville
グランビル九州

山を仰ぎ、海を望む。穏やかな清滝の栖。

MOJIKO KIYOTAKI 3 apartments

清滝三丁目アパートメント
好評分譲中
全20戸 ワンフロア2戸 全戸角部屋

コンセプトギャラリー公開中
お問い合わせ 予約制 **0120-500-712**
FreeDial

宅地建物取引業 (福岡県知事(9)第7398号)
事業主 辰巳開発株式会社
売主 辰巳開発株式会社
〒806-0055 北九州市八幡西区幸神4丁目7番6号 TEL.093-644-2500

●名称/清滝三丁目アパートメント●所在地/北九州市門司区清滝三丁目1番3(地番)●交通/JR門司港駅徒歩約7分西鉄バス清滝一丁目九州鉄道記念館前バス停徒歩約2分●地目/宅地●私道負担/なし●用途地域/商業地域●地区・地域/防火地域●建ぺい率/90%●容積率/400%●敷地面積/559.54㎡●建築面積/328.36㎡●建築延床面積/2385.07㎡●構造・規模/鉄筋コンクリート造地上11階建●建築用途/共同住宅●総戸数/20戸●販売戸数/20戸●間取り/2LDK+S(10戸)・3LDK(10戸)●住戸専有面積/84.74㎡・96.63㎡●バルコニー面積/16.41㎡~29.84㎡●ルーフバルコニー面積/27.60㎡・28.12㎡●屋上緑化面積/13.23㎡●駐車場/20台[屋内平置:2台・屋外平置:7台・屋内機械式:10台]●バイク置場/2台●販売価格/2,460万円(1戸)~3,350万円(1戸)●最多販売価格等/2,500万円台・2,600万円台・2,700万円台・3,200万円台(各3戸)●修繕積立金基金(一括)/340,000円・385,000円●管理費(月額)/6,400円・7,200円●修繕積立金(月額)/7,200円・7,700円●駐車場使用料(月額)/屋外平置:8,000円(1台)・屋外平置:10,000円(5台)●屋外平置:11,000円(2台)屋外平置:13,000円(2台)●屋内機械式2F:10,000円(4台)●屋内機械式3F:11,000円(4台)●屋内機械式1F:12,000円(2台)●バイク置場使用料(月額)/500円●ルーフバルコニー使用料(月額)/1200円●竣工予定/平成26年2月下旬●入居予定/平成26年3月中旬●建築確認番号/第BVJ-F12-10-1203号(平成24年12月14日)●分譲後の権利形態/(敷地)建物専有面積割合による共有、(建物)区分所有●管理形態/全区分所有者により管理組合を結成し、管理会社に委託●管理会社/株式会社ビルシステム●設計・監理/株式会社環境設計●施工/株式会社北九州支店●敷地所有者/辰巳開発株式会社/売主/辰巳開発株式会社●電気/九州電力●ガス/西部ガス●上下水道/北九州市営上下水道●エレベーター/9人乗り1基

フレンズショップ加盟店募集中

(株)ドリームズ

福岡県北九州市八幡西区里中 3-1-10 [大駐車場完備]
■10:00~20:00 ■年中無休(盆・正月を除く)
■dreams@cyber.ocn.ne.jp
安心の一年保障、ユーズド情報はホームページで! 新しいネットショップ近々開設。お楽しみに!!

TEL.093-614-1550
http://www.hd-dreams.com

プレゼントワインショップ

ワインを贈りたいけど、ワイン選びが難しい方へ
接客のプロ、ソムリエによるネットショップ。

プレゼントワイン

お祝いや贈り物に、プレゼント専門ワインショップ **093-234-5454**

「究極の韓国料理」

焼肉・ホルモン **全品300円!!** (税込)

ホルモン屋 **JIN-真**

福岡県北九州市八幡西区堀川町1-8
営業時間16:00~24:00
Tel.093-602-8929

折尾駅東口より
徒歩20秒!

倉庫付事務所「オフィスパレオ小倉北」2棟 誕生!!
事務所・テナント募集中!! 各戸駐車場6台以上付(無料)

賃料 **180,600円** (税込) 円~

デザイン性にもこだわり、各戸毎にテーマが違う
スタイリッシュな内装です。

小倉北区の中心/しかも都市高直「紫川IC」まで
3分と近く福岡・山口方面へのアクセス良好!

物件概要●名称/パレオ小倉北1(A・B棟)●所在地/北九州小倉北区東福崎3丁目4-13●交通/北九州丸の内線「片野」駅まで徒歩約10分(800m)●建物構造/鉄骨造2階建●室数/A棟:5室・B棟:8室●賃料/A棟:186,900円(税込)~189,000円(税込)・B棟:180,600円(税込)~182,700円(税込)●専有面積/A棟:1階倉庫42.05㎡(12.7坪)~43.50㎡(13.1坪)・2階事務所50.31㎡(15.2坪)~53.62㎡(16.18坪)B棟全室:1階倉庫37.856㎡(11.42坪)・2階事務所46.696㎡(14.09坪)●完成年月日/平成24年10月初旬設備/給湯・17コ・男女別トイレ(カプセル付)・OA20P・24時間セキュリティ(貸賃条件)●敷金/3ヶ月分●礼金/なし●敷引/なし●管理費等/なし●契約期間/5年●駐車場●整備保険料/10,500円(月額)

●マルイチ不動産販売 **☎(093)965-3901**
小倉南区徳力2-5-1 アーバンコア103号
福岡県知事免許(2)第15214号(社)不動産保証協会(社)全日本不動産協会
詳細はホームページで! **北九州 マルイチ** 検索

インプラントで身も心も美しく

歯科・小児歯科・矯正歯科・歯科口腔外科・インプラント・歯周病治療・咬合(かみ合わせ)治療

医療法人 **井上秀人 歯科**

インプラントクリニック

☎093-592-4417 井堀

北九州市小倉北区井堀2丁目8-12 ㊦ 駐車場15台収容

ベリーズ **インプラントクリニック** **小倉駅前COLET/1m地下1F**
☎093-533-8899 北九州市小倉北区京町3-1-1
小倉駅「小倉城口」より徒歩1分 土曜・日曜(午前)も診療中!

ベリーズ **クリニック** **湯川**
☎093-922-8841 北九州市小倉南区湯川1丁目2番3号
㊦ 駐車場15台収容 | 土曜(午後)も診療中!

●詳しくは、ホームページをご覧ください。 **井上秀人 歯科** 検索

良い舞台を見終えた時の
感動と胸のドキドキ感を
ずっと忘れたくないアナタへ。

北九州芸術劇場

KITAKYUSHU PERFORMING ARTS CENTER

ticket club card

メンバー募集

会費：500円、入会金なし

有効期限＝入会日から2年間。入会日から2年後の同月末日まで。
入会方法＝[窓口]北九州芸術劇場プレイガイド(10:00～19:00)
小倉北区室町1-1-11 リバーウォーク北九州5F
[電話]093-562-8435(10:00～18:00)

特典1：電話・インターネットによるチケットの先行予約

*先行販売枚数には限りがあります。(劇場指定主催公演のみ対象)
*先行販売での座席位置は、すべて良いお席とは限りませんので予めご了承ください。

特典2：ポイント積立による割引サービス

*チケット購入金額の5%相当のポイントがつきます。(劇場指定主催公演のみ対象/1公演につき4枚迄)
*積立ポイントは100ポイント単位(1ポイント1円)で次回購入より利用可能です。

特典3：年間ラインナップのご案内

*公演スケジュールやチケット前売情報などを掲載した情報誌Qを年4回お届けします。

特典4：協賛店での割引サービス

*リバーウォーク北九州デコシティ内を中心とした
協賛店でのお得なサービスがあります。

北九州芸術劇場
公式ツイッター
<http://twitter.com/kicpac>

公演情報や参加者募集情報ほか、
日々さまざまな
劇場の情報を発信中。

●お問い合わせは

チケットクラブ TEL.093-562-8435 (10:00～18:00)

詳しくは 北九州芸術劇場 チケットクラブ

北九州芸術劇場
KITAKYUSHU PERFORMING ARTS CENTER